

平和教育登戸研究所資料館 第2回企画展

風船爆弾の風景 2011

—風船爆弾の「現場」から今をみつめる—

12月17日（土）まで開催中！！

10月26日（水）より、当館第2回目の企画展「風船爆弾の風景 2011—風船爆弾の「現場」から今をみつめる—」が開催されています。この企画展では、「牛痘ウイルス兵器化拠点としての釜山」「気球紙開発生産拠点・埼玉県小川町」「風船爆弾放球基地の現在」の3つのセクションを設け、風船爆弾作戦に深く関わった釜山（大韓民国）、福島県、茨城県、千葉県、埼玉県などの「現場」に残る遺跡などの現在の様子を、写真を通じてご紹介しています。なかでも、当初風船爆弾に搭載が予定されていた牛痘ウイルス（牛などの家畜に感染する伝染病）兵器化開発拠点であった釜山への調査は、他の調査例がないため、大変貴重な調査成果を見ることができると言えます。

また、風船爆弾はアメリカ大陸を攻撃するというその性質上、放球基地が太平洋沿岸におかれたため、一部の地域は2011年3月11日に発生した東日本大震災により地震及び津波の被害に見舞われました。特に茨城県北茨城市大津町に残っている風船爆弾関連遺跡は、津波と震災の影響を色濃く受けていたことが、今回の調査によって明らかになりました。「風船爆弾放球基地の現在」ではその調査結果を伝えています。



実験に使用された動物を焼却したと思われる焼却炉。国立獣医科学検疫院釜山支所内に残っている。（大韓民国釜山）



ほぼ完全な形で遺されている唯一の風船爆弾の放球台跡。大津基地には同様のものが18基設置されていた（茨城県北茨城市大津町）



《写真左》焼却炉内部 《写真右》牛痘ウイルス兵器化開発拠点であった旧朝鮮総督府家畜衛生研究所（現国立獣医科学検疫院釜山支所）前



《写真左》奥に写るのは、大津放球基地跡の海岸に設置された「忘れじ平和の碑」。手前の瓦礫から津波の影響が見とれる（同上）
《写真右》大津放球台に入っていたヒビ。震災の影響だと思われる（同上）

風船爆弾に使用する和紙は、従来の和紙よりも格段に薄い特殊な和紙が必要とされました。そこで、東京都心から最も近い和紙産地であった埼玉県比企郡小川町にて、風船爆弾のために非常に薄い手すき和紙が開発されました。そしてその後、全国の和紙産地で風船爆弾用和紙の生産が行われていくのです。「気球開発生産拠点・埼玉県小川町」では、現在の小川町を取材し、今も受け継がれている高度な手すき和紙の技術や、和紙産地が戦争に動員されていった過程を展示しています。また、小川町で風船爆弾用にすかれた和紙の実物を展示していますので、当時の最高の技術が戦争に動員されたことを実感していただけるのではないのでしょうか。他にも、「気球紙」（風船爆弾の気球部に使用された、和紙を数枚こんにやく糊で貼り合わせたもの）製法を再現した「気球素材にさわってみよう！」という来館者が体験できる展示も行っています。ごごわだった和紙がゴムのように弾力性をもった「気球紙」に変化する過程を実際に触って感じていただくことができます。すでに体感された来館者からは「和紙とこんにやく糊でこんな質感になるなんて」と驚きの声があがっていました。



「気球紙」を触る来館者。右に写るのは小川町ですかれた和紙。

風船爆弾作戦には、牛痘ウイルスの兵器化や和紙開発、気球をアメリカ大陸まで確実に飛ばす高度維持装置こうどいじしやうちの開発など、多くの科学者・技術者たちが動員されました。

社会と科学の関係が問われる今、当時の最大限の科学技術が総動員された風船爆弾の「現場」に改めて視点を向けることで、私たちの社会と科学との関係を見つめなおす機会となれば幸いです。

11月19日・20日開催 展示解説

明治大学生田キャンパスの学園祭「生明祭」期間中の11月19日（土）・20日（日）に企画展担当者による展示解説が行われました。両日ともたくさんの方にお集まりいただき、本企画展への関心の高さが伝わってきました。

現地調査を行なった企画展担当者だからこそ語る、釜山・なごそ勿来・大津・一宮・小川町といった風船爆弾作戦「現場」の現状や、展示内では紹介しきれなかった風船爆弾の実態について、みなさん熱心に聞き入っていました。



展示解説の様子

企画展関連イベント紹介・・・ミニ気球展示、紙すき体験

ミニ気球展示

来館者に、平和への祈りをこめてミニ気球を作成していただきました。風船爆弾と同じように和紙で作られていますが、そこには気球に込められた本来の目的が見えるような気がします。資料館では、ほのかな明かりをともしランプシェードとしてミニ気球を展示しています。



ミニ気球展示の様子

和紙つくり・紙すき体験

風船爆弾の気球部分は和紙でできていたことから、来館者に実際に和紙をすいてもらってハガキを作成していただき、和紙がどのようにできているか学ぶワークショップを11月18（金）・19（土）に行いました。当日はあいにくの雨でしたが、参加していただいた方々には楽しみながら和紙ができるまでを学んでいただくことができました。



完成したハガキ



紙すき体験の様子

シリーズ Q&A

第三回 キャンパス内にある動物慰霊碑って？



動物慰霊碑は、生田キャンパス正門守衛所の裏手、駐車場の奥にある高さ約2.7m、幅約1m、奥行約15cmの大きな一枚岩でできた石碑です。

2011年11月17日、今年もこの碑の前において、日頃農学部の研究で使われている動物の供養をする、動物慰霊祭が執り行われました。

もともとこの碑は、1943（昭和18）年に登戸研究所の研究の成果が認められ、所長・篠田録と第二科第一班班長・伴繁雄らが受賞した陸軍技術有功賞の賞金1万円（現在の約1000万円相当）で、弥心神社と同時期に建立されました。

石碑の表には「動物慰霊碑 篠田録書」、裏には「昭和十八年三月 陸軍登戸研究所建之」とあることから、登戸研究所では研究のために動物実験を行っていたと推測できます。また、正式名称が「第九陸軍技術研究所」であるにも関わらず、秘密名である「登戸研究所」と刻まれていることから、秘密戦に関

わるその研究内容、ひいては研究所の存在自体が隠されようとしていたことを示唆します。

普段は草木に囲まれており、お世辞にもキャンパス内で目立つとはいえない存在ですが、この動物慰霊碑も実は登戸研究所時代からこの地を見つめてきた戦争遺跡の一つなのです。みなさんもぜひ訪れてみてください。



高さ約3m。人物と比べると動物慰霊碑の大きさがよく分かります。
（右は山田館長）

◆資料館活動報告◆

資料貸出など

2011年度より、もっと多くの方に登戸研究所のことを知っていただけるように、登戸研究所について簡単にまとめた貸出し用の展示パネル（A1・5枚）を作成しました。すでに博物館や市民団体・学校など、合計6機関にご利用いただ



いております。左の写真は5月に溝口駅前で行われた「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」で展示活用されている様子で

す。（森田忠正氏撮影）貸出し展示パネルのご利用については右側にご紹介しておりますので、ぜひご利用ください。

また、7月16日～9月4日まで開催された、埼玉県平和資料館の平成23年度テーマ展「戦争と動物たち」では、兵器開発のために犠牲となった動物を紹介する資料として、当館所蔵の「雑書綴」と石井式濾水機濾過筒が展示されました。10月29日～12月4日まで開催の調布市郷土博物館企画展「下原・富士見町遺跡の調査」では戦争遺跡紹介の一環として、貸出展

示パネルと石井式濾水機濾過筒が展示され、登戸研究所のことが取り上げられました。

●●貸し出し展示パネルご利用案内●●

■貸出料：無料

（ただし貸出時、返却時の送料ご負担をお願いいたします）

■貸出内容：「登戸研究所とは」「登戸研究所の設立」「登戸研究所の研究・開発内容」「登戸研究所と関東軍防疫給水部とのつながり」「資料館について」以上計860mm×3060mm アルミフレームパネル5枚。吊り下げ用パーツ付き。

■貸出期間：ご相談に応じます。

■お申し込みについて：ご利用日一か月前までにご予約のご連絡をくださいますようお願い申し上げます。

■貸出方法：資料館まで受取・返却に来ていただけることが原則ですが、遠方の場合などお送りすることも可能です。（ただし送料ご負担）

その他、博物館施設等に資料貸出も行っております。ご相談に応じますので、下記連絡先までお気軽にご連絡ください。

TEL&FAX 044-934-7993

E-mail noborito@mics.meiji.ac.jp

資料館からのお知らせ

明治大学創立 130 周年記念 明治大学 大ミュージアム月間 12月18日（日）までスタンプラリー開催中！

明治大学創立 130 周年記念事業の開催にあわせ、「明治大学 大ミュージアム月間」と題して大学内にある博物館・資料館・ギャラリーなどの展示施設をみなさまに楽しんでいただきながら、足を運んでいただくきっかけになればと願い、学内展示施設設計7館でスタンプラリーを開催中です。各展示施設備え付けのオリジナルスタンプを5個以上集めると、創立 130 周年オリジナルグッズをプレゼントいたしますので、ぜひご参加ください。当資料館も参加しています。※詳しくは、館内設置のパンフレットをご覧ください。

スタンプラリー開催期間：2011 年 12 月 18 日（日）まで（当館は 12 月 18 日は休館です）

グッズ引換場所：明治大学博物館受付、当館受付／グッズ引き換え期間：2011 年 12 月 22 日（木）まで



登戸研究所見学ツアー

平和教育登戸研究所資料館主催

山田 朗 館長（明治大学文学部教授）・渡辺賢二明治大学兼任講師による

登戸研究所見学ツアー

明治大学構内に残る登戸研究所史跡を巡ったあと、資料館を解説つきでご案内いたします。

開催日：山田朗館長ガイド 2012 年 1 月 21 日/2 月 18 日
/3 月 3 日, 10 日, 24 日

渡辺賢二講師ガイド 2012 年 1 月 28 日/2 月 25 日/3 月 17 日

集合場所：午後 1 時 生田キャンパス 中央校舎 1 階ロビー

内 容：集合後 明治大学生田キャンパス内登戸研究所史跡見学

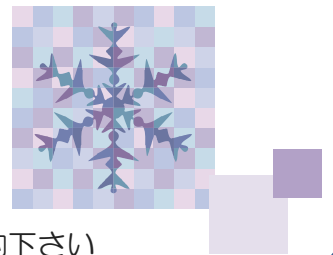
午後 1 時半 登戸研究所資料館見学

午後 2 時半頃 解散予定

参加費：無料

《学外の方は要事前予約》

※下記連絡先に、ツアー当日の午前中までにご予約下さい



編集・発行：明治大学平和教育
登戸研究所資料館

〒214-8571

神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993

Mail：naborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/

12月6日現在の来館者数は、

16,466名です。

12月25日（日）～1月10日（火）までと、
1月14日（土）は冬季休業及び入試のため休館

＜開館のご案内＞

水曜日～土曜日 午前10時～午後4時まで

※10名以上の団体見学を希望する場合は、原則、見学希望日の1ヶ月前までに、電話またはメールにて事前に予約してください。

※団体見学の場合は日曜日も予約可能です。ご相談ください。ただし大学の事情等でお断りする場合がございますので、ご了承ください。

年末年始のお知らせ